

おはなし散歩道

天水のしずく

町田市 大澤桃代

青い屋根の家の隣に駐車場がありました。春先、アスファルトを押し上げて、里芋が芽を出しました。秋の収穫でこぼれた芋です。駐車場は元は畑でしたが、里芋を作った隣のお祖父ちゃんも春の終わりに亡くなりました。七月、里芋はぐんぐん育ちました。茎も葉も大きくくなりました。

青い屋根の家には男の子がいました。男の子は二年生です。お祖父ちゃん子で、庭と一緒にサツカーを遊んでいましたが、最近元気がないように思えます。「つまんない」と一人ボールを蹴っています。「字は、キチンとていねいに書きなさい」時折、イライラしたママの声がします。男の子は字が上手ではないよう

です。それに、そう言われるとよい上手く書けません。ママもまた、お祖父ちゃんが死んでから怒りっぽくなったようです。日曜日の朝でした。里芋の葉に水が溜まっていた。里芋の葉にたまる水を「天水」といいます。月から落ちたしずくを里芋の葉が受け止めるのです。天水で墨をすり、字を書けば、上手になるといわれています。水は、朝の光に輝いていました。「早く書きなさい！」駐車場にまたママの声が響きます。あとで……男の子は、ぐずぐずしています。七夕の短冊を書く宿題が出ましたが、書けずじまいです。二階の窓が開き、男の子が顔を出しました。

願いごとは「サツカーでシュートを決めたい」ですが、書く気になれません。「ボクだって、キチンとていねいに書きたい」つぶやく声がします。「この葉っぱの水で墨をすればいいのに。里芋は思いました。でも男の子は天水のことを知らないし、里芋のことも知りません。そこへ蝶が飛んで来ました。光る水につられてやって来たのです。「水をくださいな」蝶が言いました。「はい。そのかわり」里芋は蝶にあるお願いをしました。いいわ、と蝶は葉っぱの水を飲みました。「なんて、甘い！」蝶はあちこちで水を飲んでいます。ママはあんなに甘くて美味しい水を飲んだことがありません。それから蝶は、急いでお隣へ向かい、男の子の顔の前を飛びます。サワサワした気配に、男の子



が顔を上げました。蝶は誘うように駐車場へ戻ります。「あっ！」と、男の子が声をあげました。緑の葉と光るものが見えます。男の子が走ります。後からママも来ます。「本当だ、お祖父ちゃんのお芋ね。アスファルトから芽を出すなんて。天水もあるわ！」ママはコップに水を取りました。コップに半分ほどありました。「天水よ。これで墨をすると字が上手になるの。お祖父ちゃんがよく言っていたわ」ママは涙声です。

「ボク墨をするよ。それでお祖父ちゃんありがとうって書く。シュートのことも書くんだ」欲張りね、とママが笑いました。シュツシュツと墨をする音がします。ママの声も聞こえます。「すごいわ、ていねいに書ける。先生もびっくりするわよ」男の子が頷きます。「あなたのお水が甘いのは、苦労して芽を出したからなのね」蝶が言います。そして、時々水を飲みに来るようになりしました。(さし絵・小出 茂)

富士登拝修行

代参守の御案内

平成十九年より執行されており、富士登拝修行は本年で十度目となります。今年七月二十三日から二十七日にかけて行われる予定です。

本年も例年の如く、徒歩修行にあたり、富士登拝の代参守を有縁の皆様にご授与致します。

この代参守は、高尾山御本尊・飯繩大権現様から富士山まで続く折りの道を修験者によって歩いて運ばれるものです。

道中、各参拝所で、東日本大震災により被災された方々のご安全、被災地の早期復興、国土安穩の祈りを込めながら、富士山頂での法楽においては、申込者の御芳名を読み上げ、諸願の成就を祈念致します。その後、高尾山麓での成満柴燈大護摩供にて御守を御加持したのち、登拝修行期間中、御宝前にて祈願されている碑伝(木札)と共に御授け致します。

古式に則り高尾山より歩いて参拝する、富士詣『霊峰富士登拝修行』の代参守、本年一年の、諸縁吉祥・諸願円満の為に、ここにおすすめ致します。尚、代参守は高所運搬に伴うため、数量に限りがありますことを予め御了承下さい。



授与料

代参守と碑伝合わせて 一体壹千円以上

申し込み

山上・お護摩受付所又は、葉書に、郵便番号・住所・氏名(富士山頂にて御芳名の読み上げを致しますので必ずフリガナを明記して下さい。)

電話番号を明記して、左記までお申し込み下さい。

締切は、七月二十二日とさせていただきます。

尚、締切以降の申込みにつきましては、翌年度分とさせていただきますので御了承下さい。

〒一九三―八六八六
八王子市高尾町二七七
大本山高尾山薬王院内
富士登拝事務局

高尾山の昆虫

ミスジチョウ

タテハチョウの仲間にミスジチョウという中型の蝶がいます。

漢字では三筋蝶と書き、その名のとおり濃い茶色の翅には前翅に一本、後翅には二本の合計三本の白い帯があり、翅を開いて止まると、まさに三筋に見えて理にかなった命名だと感心させられます。

高尾では初夏の頃に出現し、樹上を高く飛ぶ姿が見られます。

幼虫食樹はイタヤカエデで、高尾で比較的良好に出会うことも納得がいきますね。

昆虫の飛行にはジグザクに飛んだり、ホバリングをしたりと、いろいろなバリエーションがありますが、ミスジチョウは滑空するように華麗な飛び方をするのが特徴です。

タテハチョウの仲間では、このような飛行を得意な種が多いですが、本種の場合はそれがことさら鮮やかです。

空を飛べる身体機能を授けられなかった我々人類にとって、鳥や昆虫たちが気持ちよさそうに滑空する姿に、憧憬の念を持つのかも知れません。今夏も翅を水平に拡げて滑るように飛ぶ本種の姿が、見られることでしょう。

